

平成29年度

島根大学大学院人文社会科学研究所修士課程

法経専攻法政コース

(第1次) 入試問題

【 民法 】

注 意

- 1 問題紙 1 ページ，解答用紙 2 枚，下書き用紙 2 枚である。
- 2 指示があってから確認し，解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は，解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙，下書き用紙は，持ち帰ること。

法経専攻法政コース 民法 問題

【問1】

Yは、2016年4月1日から1か月の間、Aから自転車を賃借する契約をAとの間で結び、ただちにその引き渡しを受けて使用していた。ところが、引渡の翌日、Aは、Xに対してその自転車の所有権を売り渡す契約をXとの間で締結した。そのあとで、Aは、Xに対して、現在その自転車はYが占有している旨を告げた。Xは、ただちに、Yに対して、その自転車の引渡を求めた。この場合のXY間の法律関係について述べなさい。

【問2】

夫X(50歳)は、妻Y(45歳)と面識のある女性Aと関係を持ち、Aに子Bを産ませた。Xは、Aとの関係とBが自己の実子であることをYには秘匿し、Aが産んだ非嫡出子BをXY夫婦で育てることを提案した。Xの言葉を信じたYは、XY夫婦の間に子がなかったため、XYとBとの養子縁組を承諾し、Aの代諾にもとづいて、BはXYの養子となった。

それからほどなく、BがXの実子である事実を知ったYは衝撃を受け、しばらくしてXBのもとを離れて居所を隠し、Xらを恨んで精神的に苦悩し、経済的にも不遇な独居生活を送るようになった。Xは、ABと同居し、20年の月日が過ぎた。その後、XはYの居所を探しあて、Yのもとを訪れて過去を謝罪するとともに、XYの離婚とYBの離縁を求めた。これに対して、Yは、Xのいかなる要求にも応じない姿勢を見せた。Xは、Yを相手として、離婚を請求することができるか。裁判例を考慮して述べなさい。